

# タンザニアにおける 豆類の生産流通消費の概要 豆類主要輸出国現地調査報告

(公財)日本豆類協会

公益財団法人日本豆類協会では、豆類の生産において国際的に大きな地位を占める国を対象に、外部機関に委託して、豆類の生産、流通等に関する現地調査を実施しています。今般、令和2年度にタンザニアにおいて実施した現地調査の結果がまとまりました。



本調査は、2019年8月から2020年3月の間に、日本における文献等を通じて情報収集を行い、それに加えて現地コンサルタントを活用したタンザニアの農業省や豆類生産流通業者などの関係機関からの聞き取り、生産者や市場への直接訪問等を行いました。以下にその概要を報告します。

## 1. タンザニアの概観

タンザニアは、東アフリカに位置し、日本の約2.5倍に及ぶ約94.5万平方キロメートルの面積を有しており、海岸部はインド洋に面し、アジアとの交易拠点となっている。また、内陸国6か国と国境を接しており、それらの国々の海洋貿易拠点の役割も担っている。

一方、気候は国土の大半がサバンナ気候に属し、中央部がステップ気候、南部と北部の高原部が温暖冬季少雨気候であり、年間平均気温は25℃から30℃程度、高地では10℃から20℃程度となっている。

なお、2001年以降の経済成長率は6～7%台に達しており、東アフリカではケニアに次ぐ経済規模になるなど、東アフリカ諸国の中でも特に急成長を遂げている国の1つとなっている。

## 2. タンザニア農業の概観と政策

### 2-1. 農業概観

タンザニアの農業セクターは、GDPの24～26%を占め、年間総輸出金額

の85%を担っている。農業分野のGDP成長率は2000～2012年で4.5%であるが、GDP全体の成長率6%と比べると低い。タンザニア国内の労働人口を見ると、全体の80%が農業に従事しており、女性の労働人口については90%が農業従事者である。特に農村地域での農業の重要度は高く、農村人口の80%の所得を担っている。これら農業従事者の大部分は、伝統農法に依存しており、そのために生産性や所得の低さが課題となっている。

## 2-2. 農業政策

タンザニアは国家戦略として、2025年までに中所得国入りすることを目標としており、農業の商業化・近代化に取り組んでいる。

農業セクターの国家予算については、継続的に増加しており、2015-16年度は全体の6.2%を農業セクターに分配した。こうした予算は、灌漑や貯蔵庫といったインフラ整備や、各地における農業マーケットの開発に費やされている外、改良種子や肥料への補助金、農業技術普及センターでの活動にも活用されている。

## 3. タンザニアの豆類生産状況

FAOSTATの2018年のデータによると、世界の乾燥豆の生産は約3,045万トンで、インド、ミャンマー、ブラジル、アメリカ合衆国、中国、タンザニア、メキシコ、ウガンダ、ケニア、エチオピアの上位10カ国で全世界の生産量の71.5%を占めている。この中で、タンザニアは121万トンと世界第6位、アフリカでは最大の生産国となっており、全世界の生産量の3.98%を占めている。

タンザニアで生産されている豆類の種類は、インゲンマメ、ササゲ、ヒヨコマメ、キマメ、リョクトウなど多様である。中でも、インゲンマメの生産量が最も多く、次いで、キマメ、ササゲとなっている。豆類はタンザニアで生産される一年生作物の12%を占め、主に小規模農家にとっては重要な自給自足および換金作物となっている。また、豆類の作付面積はトウモロコシとキャッサバに次いで3番目の規模を誇っている。

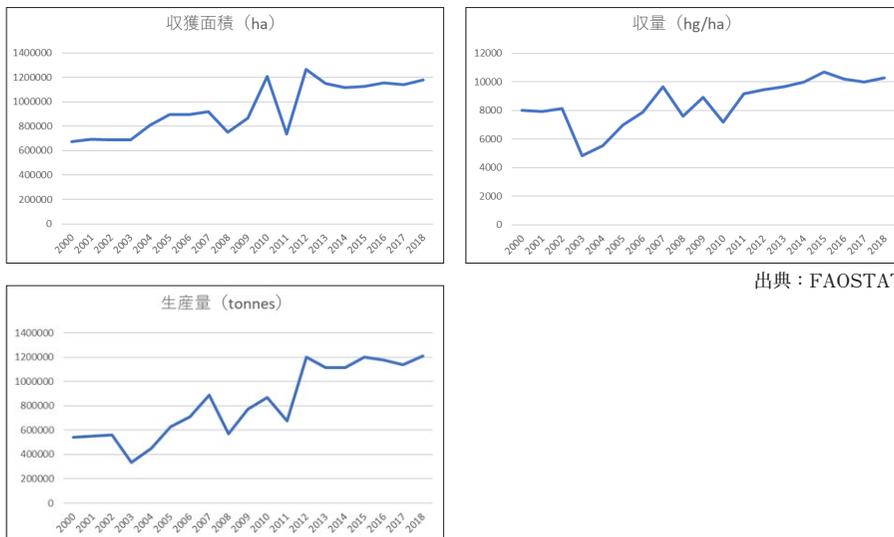
なお、タンザニアでは収穫面積、生産量、収量のいずれも増加傾向にあるが、これは、東アフリカ近隣諸国やインド、中国などの他国への輸出増加が主な要因である。一方で、生産量が前年から大幅に減少した年もあるが、これについては干ばつが発生したことが原因と考えられる。

表1 世界の豆類生産量

順位	国名	生産量 (t)	割合 (%)
1	インド	6,220,000	20.43
2	ミャンマー	4,779,927	15.70
3	ブラジル	2,915,030	9.57
4	アメリカ合衆国	1,700,510	5.59
5	中国	1,337,552	4.39
6	タンザニア	1,210,359	3.98
7	メキシコ	1,196,156	3.93
8	ウガンダ	1,039,109	3.41
9	ケニア	765,977	2.52
10	エチオピア	607,929	2.00
	小計	21,772,549	71.51
	その他	8,674,874	28.49
	合計	30,447,423	100.00

出典：FAOSTAT

タンザニアの乾燥豆の収穫面積・生産量・収量



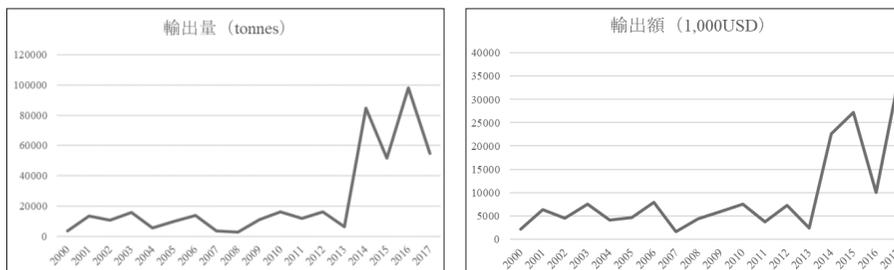
出典：FAOSTAT

#### 4. タンザニアの豆類の貿易状況

タンザニアの豆類は、グローバル市場において世界第10位（アフリカ大陸内では、ナイジェリアに次ぐ第2位）の流通量を誇り、重要な役割を果たしている。2013年時点では豆類輸出のうち、96%以上がインゲンマメ、キマメ、ササゲの3種類で占められている。また2013年以降は、ケツルアズキ、緑豆の輸出量も限定的ながら増加しつつある。豆類の輸出額を2014年時点でみ

てみると、過去10年間で年間平均成長率が22%になっている。

タンザニアの乾燥豆の輸出量・輸出額



また、FAOSTATのデータから豆の種類ごとの輸出量及び輸出額の推移をみてみると、2008年時点では、エンドウマメの輸出量及び輸出額が最も大きいですが、2014年頃からは減少している。それとは反対に、インゲンマメの輸出量と輸出額が2014年以降に大幅に増加している。

表2 豆類の種類別輸出状況(t, 千USD)

年	インゲンマメ		ヒヨコマメ		エンドウマメ		ダイズ	
	輸出量	輸出額	輸出量	輸出額	輸出量	輸出額	輸出量	輸出額
2008	2,844	4,416	15,670	6,361	72,290	36,024	73	25
2009	11,235	5,919	18,250	5,326	55,881	33,667	298	203
2010	16,064	7,523	33,331	13,040	83,112	45,473	1,207	855
2011	11,944	3,673	21,376	11,546	68,379	34,338	550	287
2012	16,210	7,299	29,042	19,850	98,337	58,770	133	42
2013	6,166	2,448	31,243	11,955	12,044	57,097	4,297	2,200
2014	84,657	22,561	42,476	19,421	64,001	32,390	528	193
2015	51,723	27,202	51,865	29,661	35,787	37,386	N/A	N/A
2016	9,793	9,982	27,756	22,155	17,115	14,056	279	395
2017	54,965	33,983	23,834	17,876	1,672	486	1,115	1,609

## 5. 豆類の生産農家と栽培状況（主産地の紹介）

タンザニアの豆類生産は、大きく分けると2種類の農家（小規模農家と中・大規模農家）により担われている。豆類農家のうち約95%を占める小規模農家（4エーカー以下の農地を所有）は主として自家消費目的で栽培しており、残りの5%が、5～200エーカーを有する中・大規模農家になっている。大規模農家は数ではこのうちの1%以下に過ぎないが、タンザニア国内の豆類総

生産量の約30%を担っている。

小規模農家はトウモロコシやその他自家消費目的の作物と混作で豆類を栽培しているが、大規模農家は輸出目的でモノカルチャー（単作）を実施している。また、小規模農家は、クワやすきなど用い人力や牛を活用しながら耕作しているが、中・大規模農家では耕作時に農業機械を用いている。なお、小規模農家の場合、ほとんどの農家が価格決定権を有していない。

タンザニアにおける豆類の主要産地の1つであるイリンガ州イフンダ郡（雨季は11月から5月）では、雨季が始まる前の9月から雨季に入る12月頃に豆の植え付けを行い、3ヶ月後に収穫期を迎える。ここでは、トウモロコシと豆の混作が主流であり、収穫後の豆は害虫から守るために薬をまき、乾燥後にはプラスチックの袋に入れて長期保存を行っている。

#### イリンガ州の小規模豆類農園の圃場



(圃場内の溝に灌漑用の水が流れている)



(トウモロコシとインゲンの混作の状況)



(収穫したインゲンマメ)



(雑草の抜き取り作業)

## 6. 豆類の流通事情

小規模農家では、通常自宅の一室で豆類を保管している。一方では、異物除去や燻蒸処理を実施した上で貯蔵庫を貸すような業者も存在している。中・大規模農家では、自身で適切な貯蔵庫を保有している場合もみられる。

貯蔵庫で保管された豆類は、農家の規模には関係なく、中間買い取り業者やブローカーを通し、大規模トレーダーへ販売されている。

また、農家や地域の農業協同組合では、都市部やグローバルマーケットでの市場価格や輸送コストに関する情報を有していないことが多く、農家は中間買い取り業者の言い値で販売しているのが現状である。このような状況を改善するため、農協の全国組織では農家にマーケット情報を提供するなどして、価格交渉のためのトレーニングを実施している。

一般に、農家が豆類の販売後すぐに安定した価格で販売代金を受け取るためには、生産者と中間買い取り業者やトレーダー間で豆類の売買に関する契約を締結することが効果的であるが、タンザニアではそのような契約を結ぶ習慣がほとんどなく、契約を交わすことは不可能で効果がないとみられている。

一方、タンザニア国内の卸売業者や輸出業者は、大規模なものに集約され、垂直型のバリューチェーンを形成している。このような企業は自社のネットワークを駆使し、先物取引を行うなど大量の豆類を取引するため、価格決定者となっている。なお価格は、その日のインドでの豆の価格に基づいて設定されることが多いが、大規模な貯蔵庫を有しているため、豆類の価格が下落したタイミングで買いだめすることもしばしば見受けられる。タンザニアの豆類の主要な輸出業者は約5社、中小規模の輸出業者は数社あるとされる。



イリンガ州のイリンガ市場



イリンガ市場で販売される乾燥豆